

貧しき物の小屋や此世の權人の誇りなる金色の宮殿と共に、全世界は一時に消え失せて暗い圓空に煙りと散じてしまふ魔術的な幻想的な夢のやうに思はれた。

或る不思議な考へが孤獨な哀れな友の精神を貫いた。彼は今まで知らなかつた力強い感情に支配されてぶるぶると顛へた。潮のやうな血が貫かれた彼の心の中にわき立つた。過剰の大幸福の爲に、哀れなヴァシヤから理性を奪ひ取つた致命的の懊惱をば、この悲しい瞬間に於いてのみ彼は只了解した。

彼の唇は顛へた。彼の乾いた目から光りが迸つた。彼は青ざめた。彼の顔は天啓にうたれたかの如くに輝いた。

孤獨な生活は、アルカアド、イヴノギッチをして悲しげな、哀れなものとなした。彼は全く昔の快活を失つた。ヴァシヤを思ひ起させるものは最早堪へ忍ぶ事出来なかつたので彼は下宿を取りかへた。彼はアルテムィエフ家へ行かうとも思はなかつたし、又行く事も出来なかつた。

二年の後彼は偶然教會の中でリザンカに出會つた。彼女は結婚してゐた。赤坊をつ

れて乳母が彼女の後についてゐた。彼等は互に挨拶した。そしてしばらく過去の事を話すのを避けてゐた。リザンカは彼に、彼女が幸福であること、彼女は氣樂に暮して居り、彼女の夫はいい人間で彼の女が愛してゐることを言つた……然し、突然、彼女の眼は涙でいっぱいになつた。彼女の聲は曇つた。彼女は横をむいて自分の絶望を人々に見せまいとして、教會の冷たい敷石の上に膝づいた。

大正七年十二月廿八日印刷
大正八年一月一日發行

〔定價金壹圓七拾五錢〕

感 想 及 印 象

奧 付

不 許 複 製

譯 者

新 城 和 一

發 行 者

河 本 龜 之 助

東京市麹町區平河町五丁目三十六番地

印 刷 者

河 本 俊 三

東京市麹町區榮町二十番地

印 刷 所

洛 陽 堂 印 刷 所

東京市麹町區榮町二十丁目九番地



電話番町四二五八番
振替東京二〇九二四番

洛 陽 堂
東京市麹町區
平河町五丁目

新城和一著譯書

ドストイェフスキイ (評傳)

洛陽堂版
定價壹圓參拾錢

狂音樂師 (ドストイェフスキイの譯)

豐文社版
絶版

感想及印象 (ドストイェフスキイの譯)

洛陽堂版

近刊豫告

白耳義佛蘭西作家集 (翻譯)

遙か彼方へ (評論創作集)

圖書目錄

東京市麴町區平河町五丁目三十六番地

洛陽堂

電話番町四二五八

換替東京二〇九一四

書 養 修 庭 家 育 教

□ 母の ため の 小 供 の 心	□ 怒 る な 働 け	□ 女 教 員 の 真 相 及 其 本 領	□ 面 白 き 科 学 の 話	□ 世 界 自 然 科 学 史	□ 精 神 逸 話 の 泉 (第 二)	□ 精 神 逸 話 の 泉 (第 一)	□ 兒 童 を 謳 へ る 文 学	□ 家 庭 及 家 庭 教 育	□ 女 の 心 (嫁 と 姑)	□ 心 理 百 話	□ 現 代 の 傾 向 と 心 的 革 命	□ 婦 人 の 生 涯	□ 教 育 に 關 する 兒 童 研 究
高 崎 能 樹	嘉 世 孝 子	後 藤 静 香	若 林 欽	黒 田 啓 次 郎	同	同	同	同	同	同	同	同	高 島 平 三 郎
一、 九〇	一、 二〇	一、 三〇	一、 五〇	二、 五〇	一、 五〇	一、 三〇	一、 〇〇	一、 〇〇	四 八	六 〇	八 〇	一、 四〇	三、 三〇
八	八	八	八	三	八	八	八	四	六	八	八	八	三

書 養 修 庭 家 育 教

□ ト ル ス イ ス	□ 不 用 意 愛	□ 養 生 の 一 日	□ 地 法 山	□ 若 き 婦 人 の 行 く べ き 道	□ 廣 き 深 き 基 礎	□ 海 の 自 然 科 学	□ 青 年 着 手 の 個 所	□ 一 日 善 講	□ 模 範	□ 早 道 歌	□ 修 養 道 歌	□ 今 昔 船 物 日 語
加 藤 一 夫	河 合 三 郎	高 橋 信	竹 中 繁 次 郎	沼 田 笠 峰	大 塚 小 一 郎	若 林 欽	山 本 温 之 助	同	同	同	同	若 林 欽
一、 二〇	一、 二〇	一、 〇〇	一、 〇〇	一、 〇〇	一、 〇〇	一、 〇〇	一、 〇〇	一、 〇〇	一、 〇〇	一、 〇〇	一、 〇〇	一、 九〇
八	二	八	八	八	六	八	八	四	四	四	八	八

農 村 教 育 及 娛 樂 書

□ 農 村 教 育 論	□ 自 治 村 巡 視	□ 地 方 自 治 改 善	□ 地 方 青 年 團 體	□ 地 方 青 年 團 的 現 在 及 將 來	□ 農 村 處 女 會 的 組 織 及 指 導	□ 農 村 社 會 學	□ 農 村 道 樂	□ 農 村 經 營 的 理 想	□ 農 家 經 營 的 實 際	□ 田 園 訓 練	□ 所 有 土 地 臺	□ 小 作 臺 帳
山 崎 延 吉	中 川 望	佐 上 信 一	山 本 瀧 之 助	天 野 藤 男	同	小 河 原 忠 三 郎	天 野 燕 男	石 川 弘	杉 山 元 次 郎	同	高 山 秀 雄	松 本 恒 吉
二、五〇	一、五〇	一、二〇	九〇	一、八〇	一、一〇	二、五〇	一、八〇	一、〇〇	一、〇〇	七〇	一、二〇	七〇
三	三	八	八	三	八	二	二	八	八	六	四	六

教 育 家 庭 修 養 書

□ 報 德 講 話	□ 夜 半 に ひ と	□ 又 逢 ふ 日 ま	□ 少 女 赤 い 夢	□ 新 案 料 理 法	□ 信 仰 五 十 二 の 礎	□ 兒 童 保 護 の 新 研 究	□ 教 育 期 間 的 健 康	□ 小 兒 の 育 成 方 法	□ 動 物 の 智 慧	□ 忠 孝 考	□ 奥 様 と お 女 中	□ 一 日 一 善 日 記	□ 修 養 一 日 一 善 日 記
花 田 仲 之 助	上 澤 謙 二	同	吉 屋 信 子	若 林 欽	田 村 直 臣	岡 村 準 一	稻 葉 幹 一	田 結 宗 誠	洛 陽 堂 編	手 塚 光 貴	福 鏡 恒 子	山 本 瀧 之 助	後 藤 靜 香
七〇	四〇	四〇	六五	八〇	七五	二、二〇	一、三〇	五〇	四〇	六〇	六〇	二五	一五
六	四	四	六	六	六	一	八	四	四	四	六	四	二

農 村 教 育 及 娛 樂 書

書 名	著 者	定 價	送 料
青 年 村 夜 學 讀 本 (前 編)	高 山 秀 雄	三 〇	四
青 年 村 夜 學 讀 本 (後 編)	同	三 〇	四
青 年 村 家 庭 教 育 本	同	三 〇	四
青 年 村 實 用 文 範 本	蓮 見、野 邊 共 著	六 〇	六
自 然 の 義 人	料 本 卯 平	一、五 〇	八
産 業 帝 國 主 義	同	一、〇 〇	八
日 本 産 業 大 地 誌	吉 田、武 居 共 著	二、五 〇	六
日 本 農 業 道 德 論	宮 武 德 次	七 〇	八
日 本 逸 の 國 民 生 活 論	裕 岡 敬	一、三 〇	三
日 本 農 業 道 德 論	前 田 貞 次 郎	一、〇 〇	六
日 本 農 業 道 德 論	向 井 虎 吉	一、五 〇	三
日 本 農 業 道 德 論	志 賀 龍 湖	五 〇	四
日 本 農 業 道 德 論	寺 岡 千 代 藏	四 〇	四
日 本 農 業 道 德 論	木 下 四 郎 一	八 〇	四

農 村 教 育 及 娛 樂 書

書 名	著 者	定 價	送 料
農 家 業 務 帳	松 本 恒 吉	七 〇	六
農 家 の 籾 簿	高 橋 立 吉	五 〇	四
農 家 の 籾 簿	井 上 龜 五 郎	五 〇	四
農 家 の 籾 簿	天 野 藤 男	三 〇	八
農 家 の 籾 簿	同	三 〇	八
農 家 の 籾 簿	同	三 〇	八
農 家 の 籾 簿	若 林 欽	二、〇 〇	八
農 家 の 籾 簿	山 崎 米 三 郎	八 〇	八
農 家 の 籾 簿	榊 本 卯 平	二、五 〇	三
農 家 の 籾 簿	渡 邊 喜 三	一、二 〇	三
農 家 の 籾 簿	田 尻 稻 次 郎	一、五 〇	三
農 家 の 籾 簿	生 江 孝 之	一、三 〇	三
農 家 の 籾 簿	岡 田 次 郎 作 譯	一、〇 〇	八
農 家 の 籾 簿	天 野 藤 男	一、〇 〇	八

宗 教 及 哲 學 書

書名	著者	定價	送料
□ 生 命 論	永井 潛	四、五〇	三
□ 生 物 學 と 哲 學 と の 境 界	同	四、五〇	三
□ 金 剛 教 史 (上 下)	富士川 游	各三、〇〇	各六
□ 日 本 西 教 史 (上 下)	太政官 譯	一、五〇	八
□ 耶 蘇 傳	帆足理一郎	一、六〇	八
□ 宗 教 と 人 生	同	一、五〇	八
□ 哲 理 と 秘 論	小酒井 光次	一、九〇	三
□ 生 命 神 秘 論	兒玉 昌	一、七〇	八
□ 滅 び 行 く 宇 宙 及 人 類	藤本 慶祐	一、六〇	八
□ 平 叙 日 本 佛 教 史	中山 昌樹	一、二〇	八
□ 哲 學 概 論	木下 四郎一	一、二〇	八
□ 日 本 基 督 教 史	山本 秀煌	一、七五	八
□ 愛 有 る 所 に 神 あり	加藤 一夫	三〇	四

宗 教 及 哲 學 書

書名	著者	定價	送料
□ 全 譯 註 ダンテ 神 曲 (地獄篇)	中山 昌樹	一、九〇	三
□ 同 (煉獄篇)	同	一、九〇	三
□ 同 (天國篇)	同	一、九〇	三
□ 心 理 學 上 の 見 方	高島 平三郎	一、七〇	三
□ 忠 義 の 哲 學 (ロイス)	鈴木 半三郎	一、三〇	八
□ 我 等 何 を 爲 す べ き 乎 (トルストイ)	加藤 一夫	二、〇〇	八
□ 我 等 何 を 信 ず べ き 乎 (トルストイ)	同	一、七〇	八
□ 悲 哀 より 歡 喜 まで	畔上 賢造	一、二〇	八
□ 生 命 の 一 路	同	一、四〇	八
□ 生 物 學 上 の 死 の 現 象	竹中 繁次郎	一、二〇	八
□ トルストイ 民 話 集	塚本 弘	一、二〇	八
□ 神 人 論 (ソロイヨフ)	關 竹三郎	一、二〇	八
□ アツシ 聖 フランシエスコ の 子 供 一 日 一 話 (自一月至五月)	田村 直臣	各四	各六

文藝及美術書

書名	著者	定價	送料
□文學に現はれたる我國民思想の研究 <small>貴族文學時代の</small>	津田左右吉	三、〇〇	三
□同 武士文學の時代	津田左右吉	三、五〇	三
□自然科学者としてのグ	小川政修	一、〇〇	八
□ミケルアングエロ	木村莊八	二、三〇	三
□ベエトフエンとミレエ	加藤一夫	一、五〇	八
□近代音楽家評傳 <small>(ロマン)</small>	尾崎喜八	一、四〇	八
□ドストエフスキ	新城和一	一、三〇	八
□留 女の <small>(小説)</small>	志賀直哉	一、〇〇	八
□蝙蝠の如く <small>(小説)</small>	有島生馬	一、〇〇	八
□彼等の運命 <small>(小説)</small>	長與善郎	一、九〇	三
□求むる心 <small>(脚本感想)</small>	長與善郎	一、二〇	八
□死の舞踏 <small>(ストリン)</small>	山本有三	一、三〇	八
□痴人の懺悔 <small>(ストリン)</small>	木村莊八	一、六〇	三
□ハイネ評傳 <small>(ストリン)</small>	藤浪由之	一、〇〇	八

文藝及美術書

書名	著者	定價	送料
□お目出度き人 <small>(小説)</small>	武者小路實篤	六	六
□生 長 <small>(感想)</small>	同	一、二〇	八
□心 と 心 <small>(脚本)</small>	同	一、〇〇	八
□彼が三十の時 <small>(小説)</small>	同	一、五〇	八
□向 日 葵 <small>(脚本)</small>	同	一、五〇	八
□後に來る者に <small>(感想)</small>	同	一、六〇	八
□小 さ き 運 命 <small>(脚本小説)</small>	同	一、二〇	八
□ある青年の夢 <small>(脚本)</small>	同	一、四〇	八
□銀 (歌集)	木下利玄	一、〇〇	八
□ノ ア、ノ ア <small>(ゴガン)</small>	小泉 鐵	一、〇〇	八
□スタルコツド <small>(ストリン)</small>	同	五	六
□ストツクホルムの殉教者 <small>(同)</small>	同	五	六
□藝術上の理想主義	赤木 桁平	一、三〇	六
□泰西の繪畫及彫刻 <small>(八冊)</small>	洛陽堂編	各冊不同	各

21164

書 術 美 及 藝 文

書名	著者	定價	送料
□本 然生活	加藤一夫	一、〇〇	八
□土 の叫び地の囁き	同	一、五〇	八
□茶 藝復興の三大藝術家話	薄田泣菫	七	六
□文 藝復興の三大藝術家	中山昌樹	一、〇〇	八
□近 世の美術革命	木村莊八	一、七〇	三
□ゴッホの手紙	同	一、三〇	八
□ポッサン	同	一、〇〇	八
□エッセル	同	一、〇〇	八
□レオナルド	同	一、〇〇	八
□初夏の夢(畫集)	名越國三郎	一、〇〇	六
□ロダンの藝術觀	木村莊八	一、五〇	三
□ロダンの生涯と藝術	渡邊吉治	一、四〇	八
□ヘッセル傑作集	吹田順助	一、六〇	三

377
135

終

